

第5学年 国語科学習指導案

日 時 令和4年7月11日（月）

第5校時 13:20～14:05

対 象 第5学年1組 34名

研究主題

自ら課題を見出し、課題解決に向けて「やり通すこと」のできる児童の育成
～「心のふるさとづくり」を軸にした、カリキュラムマネジメント～

1 単元名 「町じまん」をすいせんしよう（全12時間）

2 単元の目標

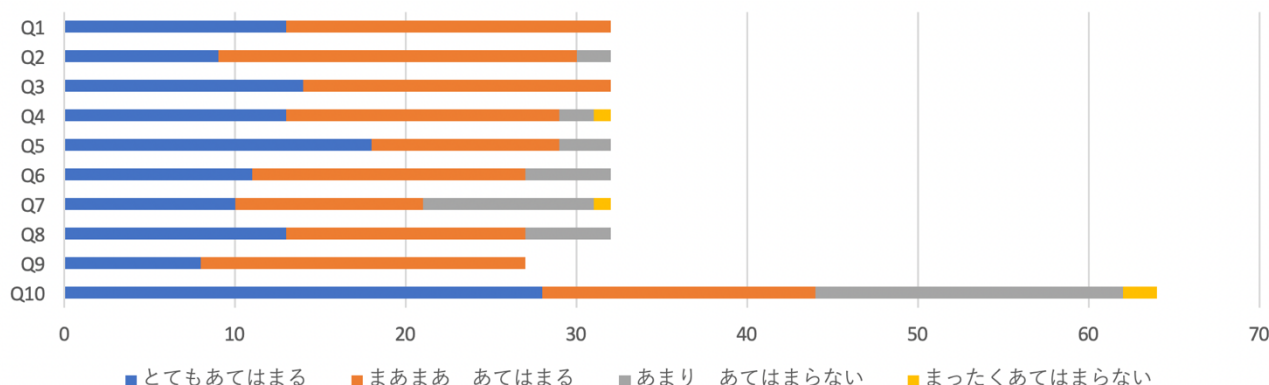
相手に伝えたい事柄が明確に伝わるように、話の構成や話し方を工夫して話すことや書くことができたり、話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えを比べるなどして、よりよい表現にしたりすることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。 ②情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し活用している。 ③伝えたいことを伝えるための言葉が適切かどうかを感じ取りながら、話したり聞いたりしている。	①目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関連付けたりして、内容を検討している。 ②話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。 ③推薦する事柄のよさを明らかにし、推薦理由を明確にして説明したり、話の構成や話し方を工夫したりしている。	①小岩や北小岩の魅力を紹介するために、進んで情報を収集しようとしたり、事柄の魅力が明確に伝わるように話の構成を工夫しようとしたりしている。 ②積極的に友達の意見を聞き、自分の考えと比較・検討しながら、よりよい内容や表現方法にしようとしている。

4 児童の実態

(1) 実態調査



- Q1 総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいますか？
 Q2 自分で課題を決めて、解決に向けて取り組んでいますか？
 Q3 自分の住んでいる地域のことを知っていますか？
 Q4 自分で調査したり、コンピューターや本などを使ったりして、情報を集めていますか？
 Q5 友達と力を合わせて学習することは好きですか？
 Q6 自分で集めた情報を整理したり、それをもとに考えたりしていますか？
 Q7 自分の考えをわかりやすくまとめたり発表したりしていますか？
 Q8 友達の発表を見たり聞いたりすることは好きですか？
 Q9 いつもの勉強で、もっと調べてみたいと思ったことはありますか？
 Q10 学習で困った時に力を借りた人は誰ですか？

(2) 考察

すべての解答において意欲的な回答をした児童が多くいた。しかし、Q7の質問では、自分の考えをわかりやすくまとめたり、発表したりすることを苦手とする児童が3割程度いることが分かる。本単元を通して、相手意識をもちながらまとめたり、発表したりする工夫に気付かせていきたい。また、本時での友達のアドバイスを聞きながら情報を順序立てて整理し、よりよい表現方法にしていく活動を通して、思考力や表現力を育てていきたい。

5 教材観

目的や意図に応じて事柄のよさを説明するために、相手意識をもちながら構成や話し方などを工夫して話すことをねらいとしている。聞き手は離しての意図を考えながら聞き、構成や話し方の工夫に気付いたり、内容に納得できるかどうかを考えたりすることがねらいである。

本単元では、「事柄や人物を推薦したり、それを聞いたりする」という言語活動を通して「話すこと・聞くこと」の「ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付けること。」及び、「イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」「エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。」を指導していく。

そこで、児童にとって愛着のある北小岩や小岩周辺のいいところをウェビングマップを活用しながら

ら話し合うことで、地域のよさを再確認したり、友達の考えを聞いて地域の新たなよさにも気付いたりすることができた。児童だけが知っているのではなく、多くの人に町のいいところを知ってもらいたいという思いから、町じまんを推薦することをめあてとして設定した。クラス全員がそれぞれ推薦したいと思う対象者を決め、相手に納得してもらうためにはどのような準備が必要かなどを話し合いながら、学習計画を立てた。「自分の大切な町のいいところを伝えたい」という思いを大切にしながら、児童が話し方や表現方法の工夫を見つけられるようにしていきたい。

6 研究主題に迫るための手立て

(1) 「心のふるさとづくり」につなげる地域人材、地域資源の活用

本単元では、児童の「より詳しく地域のよさを推薦したい」という思いを深めながら具現化するために、児童の実体験をもとに考えていく。身近なことに思いを巡らせることで地域のことを深く知ることや、新たなよさに気付くきっかけになることを実感させていき、心のふるさとづくりにつなげていきたい。

(2) 「心のふるさとづくり」を育む、学習過程の工夫

5年生では、自分たちの地域に愛着や誇りをもてるような学習を進めていく。その中で、今回の学習では身近な地域の自慢できるいいところを話し合い、場所や事柄のよさ、その理由を具体的に表しながら学習を進めていくことを学習過程とした。毎時間学んだことを振り返り、地域に愛着があることを実感しながら学習を進めていきたい。また、愛着のある地域だからこそ、様々な人々に地域の自慢を推薦したいという思いもち、それを具現化するための方法を考え、相手意識をもって表現する力の定着を図っていく。

(3) 「やり通す」ことができるようになるための学習形態の工夫、ICTの活用

推薦することについて、興味・関心に応じて決められるようにする。目的意識をもって情報を精査したり、整理したりしながら、よりよい内容や推薦の仕方を考える。単元の後半では、児童同士で推薦内容や表現の工夫をアドバイスし合いながら、紹介する対象者に対して分かりやすい内容になるように工夫できるようにする。

タブレットを用いて児童の推薦したい題材をより詳しく調べる。また、対象に納得してもらえそうな分かりやすい推薦にするため、パワーポイントを用いて作成し、言葉遣いや図、絵などの表現を工夫できるようにする。推薦内容や表現の工夫を何度も吟味できるように、アドバイスし合うときに動画を撮り、記録して後から確認できるようにする。

7 小単元の指導計画（全12時間）

時	学習活動	◇支援、手だて 【評価】
1 ・ 2	地域のじまんできるいいところを話し合おう。 ○小岩や北小岩の自慢できる場所や事柄を話し合ったり、小岩かるたを行ったりしながら、身近な地域の特色に興味・関心をもつ。 ○地域の魅力を推薦するというめあてをもつ。	◇ウェビングマップを用いて思考を可視化しながら話し合えるようにする。 【思判表①ウェビングマップ】
3 ・ 4	地域の魅力を考えよう。 ○地域の場所や事柄の魅力と町とのつながりを考える。	◇ワークシートを活用し、地域の「いいところ」をまとめる。 ◇ワークシートを活用し、地域の魅力と「町とのつながり」は何か考え、まとめる。 ◇より深く考えるために、必要に応じてタブレットを活用する。 【思判表②ワークシート】
5	すいせんする相手を決めよう。 ○伝える対象を決め、推薦することや推薦理由を決める。	◇前時までに考えた地域の魅力を元に、どのような相手に伝えたいかを理由と共に考えさせる。 【思判表③ワークシート】
6 ・ 8	すいせんするための計画を立てよう。 ○推薦するための計画を立て、推薦するための文章や資料を準備する。	◇相手に納得してもらうという目的意識をもたせながら計画を立てるようにする。 【知技②ワークシート・パワーポイント】 【主①ワークシート・パワーポイント】
9	友達と内容を確認し合おう。 ○伝えたい内容が対象者に分かりやすいか確認する。	◇相手意識をもたせ、分かりやすいか、難しすぎないかなど内容に着目させ、アドバイスし合えるようにする。 ◇振り返りをする時に、内容の視点に着目させながら振り返りをする。 【知技③ワークシート】 【主②ワークシート・付箋】

1 0 (本時)	相手に分かりやすい表現方法を考えよう。 ○伝え方や表現の仕方が、対象者に分かりやすいか確認し合う。	◇さまざまな視点から意見をもたえられるように、グルーピングをしておく。 ◇相手意識をもたせ、推薦の仕方や言葉遣いが相手に合うかどうかなどの工夫に着目しながらアドバイスさせる。 ◇振り返りをする時に、表現方法の工夫について着目させながら振り返りをする。 【知技③ワークシート】 【主②ワークシート・付箋】
1 1	推薦内容や表現方法をよりよくしよう。 ○アドバイスをもとに、推薦内容や表現方法を修正する。	◇アドバイスをもとに、相手意識を大切にしながら修正させる。 【主②パワーポイント】
1 2	地域のじまんをすいせんしよう。 ○推薦の仕方や表現を工夫しながら、地域のじまんを推薦する。	◇児童の伝えたい相手に表現できるように準備しておく。 【思判表③ワークシート】

8 本時の学習（10時間目/全12時間）

（1）本時の目標

○推薦の仕方や言葉遣いなどの工夫に着目しながらアドバイスをし合い、推薦相手に合った表現方法の工夫を理解する。

（2）本時の展開

学習内容	□指導 ・支援 ◆評価（方法）
1 前時の学習を振り返る。	□内容に着目し、分かりやすいか、難しすぎないかなどを確認し合いながら、よりよい内容にしてきたことを確認する。
相手に分かりやすい表現方法を考えよう。	
2 めあての確認をする。	□本時では、推薦の仕方や言葉使いなどの表現方法について考え、アドバイスをすることを伝える。 ・考えをもつことが苦手な児童が主体的に活動できるように、具体例を出し視点をもたせてから活動させる。
3 友達の発表の仕方や表現方法などを確認し、アドバイスをし合う。	・さまざまな視点から意見をもらえるように、グルーピングをしておく。 □付箋に、表現方法で「よかったところ」と「改善点」を書かせ、推薦者に伝えさせる。 □もらったアドバイスと自分の考えを比較・検討させるために、納得したアドバイスの付箋を順番にワークシートに貼らせる。 □推薦者に、アドバイスをもとにした次の活動を考えさせる。
4 振り返り	□学んだことや次の時間の活動内容を、学習した表現方法の視点で振り返らせる。
5 次時の見通しをもつ。	□児童の振り返りをもとに、次時の活動を確認する。 ◆【知技③主② ワークシート、付箋、発言】

【成果と課題】

成果

- 本単元の最後に、町じまんを伝えたい相手に地域のよさを伝えることができた。また、友達の発表を聞くことを通して考えを深めたり、表現方法を比較・検討しながら工夫したりすることができた。「ウェビングマップ」を用いて、児童の思考を広げながら愛着のある地域のよさを考えることは、児童の意欲や関心を高め、国語的な言語能力や表現方法の向上に深く関わっていたのではないかな。
- 前時までに一つ一つの表現方法の意味を適宜共有してきたことで、本時では表現方法の工夫を意識し、友達が意図して用いている表現方法の工夫に気付くことができた。
- 付箋で表現の工夫についての改善点を友達と共有し、自分の考えや意図と照らし合わせながら改善する優先順位を決めることができた。

課題

- 発表の際に、どのような相手に伝えるのかを友達に伝えず発表する児童が多かった。相手をしっかり伝えることで、「この相手だったら、もう少し短い文で簡単な言葉がいいのではないかな。」や「文字だけではなく、写真があるといい。」など、相手意識をもちながら発表したり、よりよい改善点を共有できたりしたのではないかな。
- 調べることに時間をかけ、調べた地域のよさを発表する児童が目立った。児童自らがその地域のよさをどのようにしていきたいかという視点で考えていくことで自分の考えが深まったり、相手が納得しやすい的確な表現にしたりできたのではないかな。

※指導案上で、実践後に変更した箇所は、青白表示になっています。